

令和4年度第4回社会教育委員会議録

- 日時 令和4年8月2日(火)
午前10時から正午まで
- 場所 徳島県庁10階 大会議室 及びオンライン開催
- 出席者 徳島県社会教育委員：12名
馬場委員長，阪根副委員長，泉委員，太田委員，加藤委員，
児嶋委員，佐藤委員，多喜川委員，中坂委員，野中委員，
濱田委員，横田委員
事務局：12名
教育次長，生涯学習課長，総合教育センター生涯学習支援課長，他9名

■会議概要

- 1 開 会
- 2 徳島県教育委員会挨拶
- 3 議事 (1) 徳島の社会教育・生涯学習について
(2) 今期社会教育委員会議の提言テーマについて
(3) 今後のスケジュールについて
(4) その他

議事(2) 今期社会教育委員会議提言テーマについて

馬場委員長 今年度は委員就任から2年目となることから、新しい提言策定に向けて協議を進めていきたいと思う。本日は、テーマを決定し、その後、骨子案についても協議ができればと思う。それでは、事務局から過去3回の会議において我々が協議してきた内容・経緯について説明をお願いする。

事務局 過去3回の会議では、今期の提言のテーマを設定するにあたり、徳島県の現状に見る課題とその改善に必要な対策等についてご意見をいただいたところである。

皆様にお配りしている別紙資料1の2をご覧いただきたい。これまでの会議のご意見をまとめている。

- ・課題への当事者意識と共有
- ・ファシリテーションスキルの修養と生きる力の養成(地域・学校)
- ・社会教育を推進する次世代人材育成
- ・人材育成後のフォローアップの必要性
- ・有機的ネットワークの構築
- ・社会教育のプラットフォームづくり
- ・生涯学習・社会教育の包括的支援体制の構築
- ・ICTをツールとした生涯学習・社会教育の取組の拡充
- ・情報格差の解消に向けた取組(※高齢者やICTに馴染みの薄い方への支援策の構築)
- ・つながりづくり(公民館と学校との連携)
- ・「徳島ならではの」の価値を認めつつ、取組を拡充する方向への転換の必要性

- ・コミュニティスクールと社会教育の連携体制づくり（地域住民が学校を舞台に活躍・働き方改革の下支え）
- ・学校・家庭・地域の目的の可視化に向けた熟議への取組
- ・地域人材バンクの設立
- ・学校関係者（対象：初任者・ミドルリーダー・管理職）への社会教育関連の研修実施

以上のように、委員の皆様が日頃から生涯学習・社会教育について考えておられることや、各委員のお取組や知見に基づく、多様な視点からのご意見をいただいたところである。

これまでの会議内容についての報告は以上である。

馬場委員長

ただ今、事務局からの説明にもあったように、これまでの協議内容をまとめて紹介いただいた。このことを踏まえ、事務局では提言テーマ案を3つ準備しているようなので、説明をお願いしたい。

事務局

資料1-1。今期テーマ案をご提示するにあたり、H30の中教審答申や、生涯学習分科会における意見のとりまとめ、そして、委員の皆様から各会議でいただいたご意見を元にテーマに関する事務局案を作っている。

案1「つながり方が拓くこれからの社会教育～学びと支え合いによる Community Development～」

これまでも、社会教育委員会会議においては、ネットワーク作りの重要性について、ご論議いただいていたが、コロナ禍という社会課題の中を生きる私たちは、「人・もの・ことをつなぐ」社会教育の重要性や「つながり方」について改めて考えを巡らせつつ、地域社会の未来の形成に主体性を持って関わっていくという考え方を示すテーマ案となっている。

「Community Development」とは、都市や農村でコミュニティの住民がコミュニティの資源を生かし潜在的能力を開花する中で、主体的にコミュニティの生活上の課題を解決する営みのことであると言われている。

次に案2「持続可能な『つながり』が創る徳島の未来～ウェルビーイングを支える生涯学習・社会教育基盤の形成にむけて～」

こちら「つながり」をキーワードとして使っているところは案1と同じである。

直近の第11期および第10期中教審生涯学習分科会では、科学技術の進展と社会課題の解決を謳ったSociety5.0を見据えた生涯学習・社会教育とともに、社会的包摂やウェルビーイングの実現に配慮した生涯学習・社会教育が議論されている。

また、ウェルビーイングの考え方は、前期提言「誰もがいきいきと暮らせる地域づくりをめざして」にも共通しており、前期提言内容のブラッシュアップも期待できるテーマ案として提出した。

「ウェルビーイング」とは、心身と社会的な健康を意味する概念や幸福な状態。充実した状態などをさす言葉である。

案3「自立と共生を育む社会教育～県民のアイデアがカタチになる徳島・自己実現の舞台をめざして～」

近年は、行政が担ってきた公共（公助）が縮小傾向にあり、その一方で、関係性の希薄化を背景に共助の縮小も見られるところであり、両方が縮小すれば、社会課題が拡大することは明らかである。

このような、社会状況を打開するためには、県民の学びと意見表明、そして改善に向けての行動が重要になることはいうまでもないことから、県民の学びを支援する社会教育の重要性について言及するテーマ案となっている。以上が、事務局案の説明である。

続いて、資料1-4をご覧ください。

提言の構成案を掲載している。テーマ設定を済ませていないので、あくまでも、ご意見をいただくためのたたき台として準備をしている。

表の右側から左側へ各段ごとにご覧いただきたい。

右列は各委員からのご意見や、前期提言からも継続して取り組みたい内容等、生涯学習審議会第10期・第11期で議論されている内容を反映させている。これらの意見をカテゴリー毎に振り分けると、中段に示しているように「ひとづくり、つながりづくり、地域づくり」に分類できる。

この考え方は、H30年12月の中教審答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」の中で示された。社会教育を基盤とした「ひとづくり、つながりづくり、地域づくり」の柱を、前回提言から引き継ぎ、今回の提言にも生かすことができればと考えている。

次に、表の左列をご覧ください。生涯学習審議会第10期、第11期で議論され、且つ、徳島県の現状を変えるために必要な要素として、「学び直し（体験活動の充実含む）」「学びと活動の循環」「社会的包摂」の3要素を抽出し、組み合わせ次期提言の骨子案を考えている。事務局からの説明は以上である。

馬場委員長 テーマ案を3つとたたき台としての骨子案も提出されているので、各委員からご意見をいただきたい。まずテーマ案についてのご意見をいただきたい。

泉委員 提言テーマ案についての説明も受け、その背景もよく理解した。私は、第2案が良いと思った。前期提言のブラッシュアップをしつつ前進していく思いが込められているところが良いと思う。

加藤委員 テーマ案どれも良いと感じる。その中でも「つながり」という言葉は外せないと思う。案3の中に「県民のアイデア」とか「自己実現」という言葉があることから、自分ごととして考えられるのではないかという印象を持った。社会教育は難しいと捉えられがちであるので、「自分ごと」として捉えられるワードは必要だと思う。また案の中にある「未来」というワードは時間軸として必要。「未来」には、良い未来と、そうではない未来がある。良い未来像まで含んで提言できると良いのではないか。案を拝見しての第一印象は以上である。

馬場委員長 前期提言では、「徳島らしさ」ということが大きなテーマとなっていたところであり、今期も、そのような部分を意識しつつ提言をまとめていく

必要がある。

児島委員

三つの提言テーマ案の中で「学びなおし」に触れられており、重要だと思っている。例えば、人生100年時代、仕事をリタイアして地域とのつながりも少なくなった方の「生きがい」ともなる学び直し、公民館等がそのような方々の居場所になるというような仕組みが今後重要になると思う。また、コロナ禍で「エッセンシャルワーカー」という言葉の認識が広がったが、得てして「エッセンシャルワーカー」は待遇が良くないことが多い。医療従事者を除いて、高等教育を受けていないということも要因となっているのだろう。このよな方々が、改めて自分の仕事の意義を学び直すことによって、誇りとやりがいにつながると思うので、社会教育にとって「学び直し」という言葉が入っているのは、非常に重要なポイントだと思う。三つの提案の中では、案3がズバリ社会教育の意義「自立と共生」を打ち出している。「自立」を強調しすぎると昨今は批判される傾向にある。ただ、皆さんご承知のように自立は人の手を借りないということではなく、自立と公助はセットになっているので、それを支える社会教育という点で、案3がすっきりしていると思う。

「Community Development」という言葉について、大事な視点だと思うが、これは昨今、広まっている考え方なのか。「つながり」「絆」は大事な考え方なのだが、もう少し切り込んでいくという点では案3が良いと思った。

佐藤委員

どの案も素晴らしいのだが案2の「持続可能な『つながり』が創る徳島の未来」を支持したい。県の方針にもV S 東京というのがあるが、「徳島」が入っていることにこだわりたい。徳島県の人口は世田谷区1区の人口より少ない。その中で、「つながり」をどのように作っていくのか。日本の未来について考える上で重要なことである。あえて「つながり」と「徳島の未来」を強調して提言をまとめて行くことが良いと思う。

県の事務局への要望として、FT・CSという短縮の言葉については注釈をつけるなどの対応をお願いしたい。

多喜川委員

案1から案3まで、いろいろな考え・背景があるということを理解した。その中で、社会教育は誰を対象にしているのかを考えると、言葉に思想・理念、願いが現れると思う。「Community Development」「ウェルビーイング」「アイデア」「カタチ」がローマ字や片仮名で表記されており、果たしてメインターゲットにしている方々に理解していただけるのか。このテーマを基に、「学び直し」や「学びと活動の循環」「社会的包摂」といった具体的な構成があって、その中でリカレント教育を始めとした具体の事業に予算を付け、人をつけ、事業を実施して、フィードバックをして来年の予算につながると考えると、テーマの言葉として設定するには理解しづらいのではないかと。初見で理解していただける、公民館や図書館に掲げて「こういうことをやっているんだ」とわかることが大事ではないか。社会教育を広めていくには、平易な、少なくとも団塊の世代に分かるような言葉に代える必要があるのではないかとと思う。

馬場委員長

社会教育で最も重要だと思うのは、地域人材をどのように育成するかだ

と思っている。自立した市民を育成していくことによって、自立した地域コミュニティが出来上がっていくもの。「Community Development」という言葉は社会教育に携わっている人には耳なじみがあると思うが、一般の方にとっては分かりづらいかもしいないので、そこは注意していきたい。

中坂委員

案2の「持続可能な『つながり』が創る徳島の未来」を支持する。持続可能性の中でSociety5.0について触れていたが、Society5.0の社会の到来を考えると高齢者と我々世代との情報格差の問題は社会教育として解決すべき課題だと感じている。ウェルビーイングについても、誰もが置き去りにされない社会をどのように実現するかが課題だと思う。「つながり」という点からも、世代の違い等、関係なく学び合える環境が必要だと感じた。

馬場委員長

若い視点からのご意見であったと思う。デジタル・ディバイドを始め諸課題を解決するため、若い世代と高齢者がともに学び、一緒に伸びる環境づくりが重要だ。

野中委員

提言テーマにあまりこだわりたくないところだが、案2案3をミックスしてもらえればと思う。提言テーマは誰が見ても分かりやすい言葉を使うことが必要だと思う。例えば「つながり」「絆」などで表現すると、皆の関心を集められるのではないか。難しい言葉では意味がない。見てもらうことが重要だと思う。

馬場委員長

多くの方々に、すぐさま理解していただけるような表現・骨子が大切であるというご意見であった。

濱田委員

各委員のご意見を伺いながら、「基盤」「自分ごととして捉える」「徳島らしさ」「徳島の未来」というものについて同じ意見である。テーマについては「めざす姿」を表すものだと思うので、例えば、自分が今取り組んでいることが、テーマの実現に向かって進んでいるのだと、すぐに確認できるようなテーマが良いと思う。テーマは掲げておいておくものではなく、常にそこに立ち戻って振り返りをしつつ進んでいくための指針であると思う。当事者として、自分が「めざす姿」に向かって進んでいるか、社会教育が与えられたり、強制されたりするのではなく、自分たちが当事者としてテーマに掲げる姿に向かっていくかについて確認できるテーマ設定ができればと思う。

馬場委員長

徳島らしさを忘れず、徳島の未来を見据えたテーマ設定をするべきというご意見であった。

横田委員

提案されているテーマ3案ともに、社会教育に取り入れていきたいと思う内容である。私自身が日頃から考えていることをご提案させていただきたい。提言は教育長に提案するという性質のものであることから、しっかりと財源確保・事業化につなげていくことが必要だと思う。資料にある持続可能な事業構築・財源確保は、社会教育にとって必要な視点だ。教育行政の中でもメインを担えるような社会教育的な事業構築は必須である。

私自身、学校教育の現場にいるが、人材不足や外部人材との連携の必要性を強く感じている。幼小中高のどこかの世代に特化した連携ではなく、全ての世代が人材と関わることができる仕組み、世代を断絶させない仕組みが構築され、その中で社会教育が受け継がれる基盤ができることが必要

であると思うので、人材育成・その活用についても全ての世代で考えていくということ、教育行政として事業化を図り実践していくことが重要であると考えている。

馬場委員長

行政経験者としての貴重な意見をいただいた。他県でもよく見られる傾向として、提言は出すけれども実行に移されるかどうかは別の話。実際の行政にどのような影響を与えるかを我々は考えなければならない。徳島県の場合は、生涯学習課の皆さんのご努力もあって、我々が提言としてまとめたことが少しずつ政策に反映され実現化されている。全てが実現されているわけではないが、先ほどの意見のように学校教育と社会教育の連携協働が進んでいくにはどうすればよいのか、「つながり」をどう構築するのか考えていく必要がある。

阪根副委員長

基本的には、分かりやすいテーマが良い。4月に大学に副知事を招いて教職について講話をいただいた。受講の学生150名ほどのうち3割程度が徳島県出身者であるが、その学生たちに副知事から「徳島の良いところ」について質問があった。学生の回答は「自然が豊か」「人が優しい」というもので、結局のところ「よくわかっていない」というのが現実であると思う。ある学生が講義の後で「『徳島ならではの』とは、ある意味抽象的で、具体性が見えてこないところが『徳島ならではの』ではないのか」という意見を述べていた。面白いと思いながら学生の意見を聞いたのだが、今回の提言では「つながり」を重視しようとしているが、もしかするとこれが「徳島ならではの」の一つなのかもしれない。県民が動けるようにするために行政がどう考えるのかという提言を出すことが重要である。社会教育・生涯学習の区別がつかなくなっている現実があるので、我々の立場は行政としての仕掛けをどのように提案するか協議する必要がある。

徳島の持つ良さを子どものうちからしっかりと学ぶということの重要性を実感している。

馬場委員長

さて、貴重な意見をたくさんいただいたところであるが、提言骨子を考えるにあたって、本日は欠席しておられる内藤委員から、「徳島には、頑張っている活動している人材はたくさんいるのだが、その個々の取組が繋がっていかないことが課題である」というご意見を繰り返しいただいた点も重視すべきだと思う。私自身、徳島にしばらく住んでいたことがあるので、徳島県の方々、お一人お一人が社会教育に尽力しておられることは承知しているが、頑張っている人同士が繋がらない。頑張っている人同士がまとめれば「徳島らしさ」が生まれるのではないかと思っている。ネットワークというと、その意味が伝わりにくいところもあるので、平成30年度の答申でも使われている「つながり」とした方が、幅広く分かりやすく良いイメージを持たれるのではないかと思う。「徳島らしさ」を大事にしながら、徳島県の横のつながりをどのように作っていくかが、今後の大事な視点となってくる。そして、ここに今の社会の動きをどう入れ込んでいくかが提言をまとめる上で重要なことであると思う。

先ほど、若い世代が徳島のことをあまり知らないという話があったが、実は昨日、県内市町村の社会教育委員が会員である徳島県社会教育委員連

絡協議会の理事会・総会・研修会が開かれた。研修の部分では、「徳島の魅力発信」に取り組む県内の5高校から集まった生徒が、活動報告を行ったところである。前期提言に基づくこの事業は昨年度からスタートしているが、このように子どもたちが、地元の良さを小さい頃から知ることが、次につながる人材を育てていくことになる重要な取組である。社会教育だけでは難しい部分もあるので、学校教育と連携することが重要である。

阪根副委員長

NHKで「橋」をテーマにした番組が放送されていて、素晴らしいと感心している。「橋と川の文化」これが徳島なんだろうと思った。「橋」が人をつなぎ、また「川」が人を分断することもある。「橋と川の文化」は「橋」が落ちればつながらないし、「橋」がつながれば人もつながる。今回提言テーマとして「つながり」という言葉を残していただきたい。

加藤委員

「徳島の橋」というタイトルの番組であり、「つながり」が鍵となっていてでき上がったもの。コンテンツは普通、ディレクターや記者が作るのだが、現在NHKでは、他の部署と積極的につながっていきこうという流れがあり、ご紹介いただいた番組は技術スタッフの提案によるものである。技術と放送が一緒になって、つながって作っていきこうということで始まったものである。番組は「徳島の橋」というカルタを作っている阿南高専の先生の監修を受けながら制作しており、48回のシリーズとなっている。

馬場委員長

さて、提言テーマについて各委員から意見をいただいたところであるが、補足したいことや、現在、「学び直し」「学びと活動の循環」「社会的包摂」が提言を構成する内容として上がった提言構成案について、他にも盛り込むべき内容など、ご意見をいただきたいと思う。

泉委員

先ほどは、徳島県社会教育委員会議としての提言テーマという考え方で意見を述べたが、「当事者として進んでいけるか」という視点が重要だという濱田委員のご意見を伺い、自分が当事者として進んでいけるテーマかどうかを考える必要性に気づくとともに、当事者として大事に思うことは、個々それぞれに違うので、一つに絞るのは難しいとも感じた。

そして、やはり案2のテーマは、自分の目標とも重なるものであり大切にしたいところ。また、表現についても英語や片仮名表記についてご意見があったが、日本語でも難しいものがある。表記の難易にこだわらず、誰もが「当事者として進んでいける」テーマになることが重要ではないかと思う。構成案について言及することはないのだが、先ほどから取り上げられている「徳島の魅力」について考えたとき、県外出身者である私にとって、「徳島の水の豊かさ」は驚くものである。夏の新町橋と川、眉山そして青い空が見える景色は最高に素晴らしいと思っており、県外の方に薦めたりする徳島の魅力の一つだ。「知らない」「気づかない」では惜しいと思う。県民の皆が知ることができる施策を作っていければ良いと思った。

加藤委員

「つながり」は必須と先ほど申しあげたが、「つながり」をもう少し因数分解して考えてみる。仲の良い者同士が集まるというよりは、敵とつながる、対立を超えて、分断を超えて、違いを超えてつながる、今の時代ならではの「つながり」が、わかるような方向性が入ると良いのではないか。

先ほども徳島の自然は豊かだという話があったが、徳島の自然の素晴ら

しきは、海・山・川がコンパクトに在って、一日で楽しめるところなのだが、このことが、あまり知られていない。SNSも含めて周知していくべきだと思った。

児島委員

先ほどの事業紹介等を拝見し、本当にいろいろな取組が行われていると知ったし、これがもっと広く認識されるようになるといいなと感じた。それには「つながり」というものが大事なのだろうと思うが、前期提言でも申し上げたように「つながり」「絆」は実態の見えにくい言葉で、当時この言葉は溢れすぎていると感じていたが、阪根副委員長長の「橋と川の文化」と「つながり」をつなげて「徳島らしさ」を生み出していくというご意見はとても面白いと拝聴した。欲を言えば、「つながり」という、ふわっとしたもので終わらせるのではなく財源の確保、持続可能な事業構築につながっていくことが重要だと思う。

馬場委員長

私自身「つながり」については、分かったり分かりにくかったりするイメージがあるのだが、他に言葉が見つからないというところもある。社会的包摂という言葉のように、いろんな人が含まれる良い社会をどう作っていくかが大事なこと。

佐藤委員

生涯学習・社会教育に関して、たくさん事業化がされていることを知った。その上で、提言構成案を見て「学びの必要性を感じていない人を学びに向かうようにする」ということからリカレント教育の充実、さらに学びのアウトプット環境の創出、デジタル・ディバイドの解消とつながっているのだが、先ほどのスライドを拝見し「つながり」があると良いのではと思う部分もあった。私の考える社会教育は、人がつながり、人を作っていくこと、それが徳島の良さを作っていくというように、全てがつながっていくというイメージである。社会教育もつながりの中でPDCAを回しながら、次第に向上していくという方向をめざすものになると良いと思う。

多喜川委員

各委員の意見を伺い「つながり」の重要性を改めて感じたところ。仲の良い人同士はコロナ禍でもつながり続けている。一方、同じ団地に住んでも、筋が違えば同学年の子の親であってもつながっていないという事例は少なくない。このような状況を鑑みると、我々の社会は「つながること」が大事ではないかと思う。予算確保をしっかりと行い事業を進める必要がある。絵空事では何も変わらない。

馬場委員長

プレゼンテーション能力が予算確保には重要なポイントになる。

中坂委員

各委員の意見を伺い「つながり」の必要性を改めて考えている。コロナ禍にあって、地域のつながりが希薄になっていると強く感じる。先ほど紹介された事業のように、異なる世代の人がつながって、地域の魅力を発信していくことも「つながり」を生み出す仕掛けであると感じた。私自身、事業に参加したことがあり、「楽しい」と思いながら活動をした。このように「楽しい」という気持ちは、活動や「つながり」づくりの原動力になると思うので、さらに広めて行くことが必要だと思った。

馬場委員長

「つながる」とは言葉では簡単だが、本当に難しい部分がある。「つながり」方が分からない人もいる。「つながる」きっかけを、どのように作り出

していくかは社会教育の重要な務めの一つである。

野中委員

事業説明等のスライドも拝見し、提言構成案について「人づくり」は十分に進んでいるのではないかと思う。次世代の若者に刺激を与える事業が展開されているが、特に、人材育成後のフォローアップについては提言の中に入れてほしい。学びの提供はすると思うが、学んだ後の実践が重要だ。実践に結びつかない人を如何にフォローアップするか、地域のための人材をどのように育成するかが重要だと思う。

阿波市の取組を紹介すると、廃棄される寸前のピアノを公民館で預かったことから国立音楽大の先生方とつながり、東京、岩手、阿波市の地域の人材も巻き込んで第九を公民館で実演することになった。

馬場委員長

素晴らしい実践である。地域に埋もれている教育資源を活用し、つながりを拡充している活動である。

また、社会教育ではフォローアップについて、これまで十分ではなかったが、成果が見える化していくことが重要だ。

濱田委員

「つながり」ということは横展開で、今という時代を共に生きている私たちがつながるということと、時間軸でつながるという両側面があると思った。先ほど、事業説明のスライドを拝見し、総合教育センターが立ち上がった時の生涯学習課の一員として講座運営に携わったが、人集めに苦勞したことを思い出した。周知することの大切さ、知ってもらうための工夫、そこに費やすエネルギーは大きいと思う。当時、立ち上げた講座がブラッシュアップされて継続されていて、生涯学習・社会教育、家庭教育を支えているということを知り、非常に嬉しく感じ、「つながる」ということの意味を考えさせられた。

また、徳島の若者が徳島の素晴らしさを語れないという意見が出ているが、エピソードモードで対話ができていることに理由があるように思う。事実と関係性と感情があれば、情報が深いところで共有されるが、「なんとなく良いね」で終始してしまっているのもう一つ情報を深めていくというワンステップがあれば、つながりが豊かになると思う。

馬場委員長

伝える時に「良いよ 良いよ」ばかりではなく、こんな失敗談もあるよといった話、マイナス面の情報を提供し、それを、どのように克服していくかといったアイデアをもらうようなことも大事だと思う。

横田委員

各委員の意見を聞き、この場のつながりも大事だと思った。佐藤委員の意見にあった「全てがつながる」という言葉が印象に残った。

以前、勤務校の校誌の巻頭言を書くにあたり「つながり」について書いたことを思い出した。勤務校は800人の生徒が在籍する大規模校である。ここで育った生徒たちが地域連携を意識するような人材として育てば、地域を牽引する非常に大きな力になるのではないだろうか。高校生たちが、地域の人とつながることが当たり前、自分たちの生活に役立つし、将来にも役立てていく、自分たちが大人になったときも周りの人とつながっていくという視点を持てるように育成していきたいと思っている。

学びに人を向かわせるには、きっかけづくりは重要。中坂委員の意見にあったように、活動をやっている楽しいと思えることは非常に重要なモチベー

ションであるし、この楽しいという気持ちを仲介にして世代の異なる人の学びのフォローアップに繋げていくような循環が生まれると良いのではないか。そのためには、予算を確保し事業化して時間軸としてもつながっていくことが重要だと思う。

各委員の意見にもあるように「つながり」をキーワードにいろいろなカタチで豊かになっていき、それが「徳島らしさ」をアピールできるようなものになればいいのではないかと思う。

阪根副委員長

徳島の良さのもう一つは、極端に大きな事故が起きない、犯罪の少なさと言えるようにも思う。データは持ち合わせていないので感覚的なことになってしまうが、もし、これが正しいならば、一定の理論が成立するのではないか。1969年にアメリカの犯罪学者トラビス・ハーシーが提唱した「ソーシャルボンドセオリー」社会的絆理論により「社会的絆」を、①愛着②コミットメント③巻き込み④規範観念の4つと紹介している。徳島県はコンパクトで、県民は勤勉・真面目。大きく広げるよりは、小さくきっちりまとまるので、緩やかなつながりが見えにくいし、続かない。だからこそ「つながり」を考えることが重要であるのではないだろうか。

馬場委員長

今日、地域学校協働活動の報告書が配布されているが、今、文科省が力を注いでいる社会教育事業である。それと並んで、学校教育側の事業であるコミュニティスクールを強力に進めている。コミュニティスクールという名称のもとに実施している社会教育側の活動が、素晴らしいということで表彰制度を設けたりしている。

先日、文科省の方と地域学校協働活動の将来性について話したところ、現文科省のトップはコミュニティスクールには熱心だが、実働している社会教育側の取組には、あまり熱心ではないらしい。地域の人たちの成長につながるものだというのを、積極的にアピールするべきだ。

事業を作ることはいいが、どうやって発信していくか、影響を与えていくか、地域住民がどう変容したかが「見える化」していく努力が重要だ。発信力も含め、提言をまとめていく必要がある。

本日いただいた各委員のご意見について、事務局とも検討しまとめたものをフィードバックさせていただこうと思う。